

播磨 まちかどニュース

With いなみ野学園



兵庫県いなみ野学園では、大学院生などの受講生が自主制作として、地元ケーブルテレビ局「BAN-BANテレビ」と協働し、テレビ番組「播磨まちかどニュース With いなみ野学園」を制作しています。学園内外の魅力的な活動を映像で紹介する15分の番組です。瓦版では、これまでの配信動画の内容を紹介しています。

★★最新の配信動画★★

現在、いなみ野学園ホームページに掲載している動画をご紹介します。

播磨まちかどニュース with いなみ野学園 126 「松風ギャラリー」&「ササユリ」

◆配信日 令和8年7月1日



元 いなみ野学園 副学園長
新井 壽さん



リニューアルオープンをした松風ギャラリーでの「長谷川末吉（すえよし）コレクション展」をお伝えしましょう。

令和8年6月5日（金）、お二人の方にインタビューをしながら館内を巡りました。お二人は高校生時代からの同級生で、今も同じ地域に住む友だち同士です。一人は、元いなみ野学



加古川市立 松風ギャラリー
岩坂 純一郎 館長

園副学園長の新井壽（ひさし）さん、もう一人は、松風ギャラリーの館長岩坂純一郎さんです。

新井さん「ウォーキングが趣味で、ここ松風



ギャラリーには館長へのあいさつがてら、ちょくちょくきます。」

MC「今回のコレクション展の長谷川末吉さんの写真を見ると、なかなかのイケメンですね。30歳の写真だそうですね。明治から平成にかけて

の35作品が展示されているそうです」

岩坂さん「今回のリニューアルオープンは、ハリマ化成さんの協力のもと、利用者目線に立って、是非とも見て欲しい作品を揃えました」

岩坂さん「照明を明るくし、床色も落ち着いた色で、兵庫県出身の方を中心に作品を選びました。中でも評価額の一番高いのは、あの小磯良平さんの作品です」

岩坂さん「私が文化センターの事業課長だったとき、運営審議会で審議委員長である長谷川末吉さんが、常々『地域の文化を上げないとダメだ』と話しておられました。その思いを受けて、地域の文化を掘り起こし、地元で活躍した人を再評価しようと今回の作品選びも行いました」

以上、岩坂館長さんからの説明を聴きながらギャラリーを回り、そこで交わした話の主な内容でした。

この対談の最後に、改めてお二人から印象や思いをお聴きしました。

新井さん「今日は、館長の説明を聴きながらゆっくりと見せてもらいました。どの作品も素晴らしいなあと実感しました」

MC「これまでは何となく見ていたけど、説明を受けて見方も変わり、気持ちが落ち着くそんな感じになりました」

岩坂さん「一人でも多くの市民のみなさんに訪れていただければと思います。リニューアルで、視覚的な訴えもできるようになりました。多くのみなさんに繰り返し足を運んでください」とのことでした。

MC「最後に岩坂館長さんも言われていましたが、『一人でも多くの方に訪れて欲しいです』と。この松風ギャラリーは、無料で観賞できるのですから、それが一番有難いと思いますね」

MC「『地域の文化レベルを上げたい』との長谷川末吉さんの願いを受けて、リニューアルオープンした松風ギャラリー。多くの方に来ていただいて、文化の香りがする作品を鑑賞しませんか。きっと心が落ち着き、心豊かになることでしょう」



続いて、もう一つの話です。ちょうどこの時期に、高御位山にはササユリの花が咲きます。白色、薄

ピンク色の清楚なササユリは、多くの登山者にも愛されています。視聴者の三浦治さんから届いたササユリの投稿写真です。近年、高御位山ではササユリが少なくなってきたと聞きますが、この投稿写真を見ると、可憐で清楚な美しさを持つ高御位山自慢のササユリ。何とか回復・復活してほしいものと思いますね。

先の松風ギャラリーの「地域の文化を上げて行きたい」ことと、ササユリを「守っていきたい」こと、どちらも共通する「市民の思い、市民の願い」ではないでしょうか。

そこで一言、「自然豊かで 文化の香る街 ところ満たされて 私たちは幸せになる」と。種田山頭火風に、字余りでしたためました。



(ナレーション 大前小夜子)

「みとろの丘(みとろフルーツパーク)」

◆配信日 令和8年7月16日◆



みとろの丘
(見土呂フルーツパーク)

今回は、「みとろの丘（みとろフルーツパーク）」の様子をお伝えしましょう。

ここ「みとろの丘（みとろフルーツパーク）」は、2024年グランドオープンして2周年を迎え、「市民の憩いの場」としてすっかり定着し、市民に愛されているところです。

「つくる、つながる、みんなの居場所」をコンセプトに、様々な体験を通して、人と自然のつながりを感じられる農業公園です。

園内は広く、色々な樹木や果樹が植えられ、温室（ガラスハウス）もあります。展望台からは加古川市内が一望でき、グランピングやキャンプなど宿泊施設も備わっています。正に、「五感で自然を楽しむ」ところと言っていていいでしょうね。



施設スタッフの秋本 茉樹さんに、説明を受けながら案内してもら

いました。秋本さん曰く、「芝生が一面に広がり、梅やスモモ、ブルーベリーの木が見えるこの景色が、私が一番大好きなところですよ」と。

次に案内していただいた「ドッグエリア・ドッグパーク」は、「大型・中型・小型



ドッグエリア・ドッグパーク

犬エリアの3つに分かれていて、大型犬と小型犬が交わらないので、ワンちゃんも存分に

楽しめます」と話してくれました。



苺すべりの丘

続いては、「苺すべりの丘」へ。苺がキレイに刈られていて、苺

すべりスライダーや段ボールなどで自由に芝の上をすべり降りができるところのこと。子どもたちがとても楽しそうにすべっていました。



宿泊施設

ここは、宿泊施設もあり、キッチンも揃い、畑で収穫した野菜をバーベ

キューできるのです。夜は電気の光ではな



アウトドアセンター

く、ランタンの灯りで過ごすそうです。また、「アウトドア・セン

ター」には専用のシャワールームがあり、宿泊客は勿論、日帰りの方も利用ができるそうです。

また、季節季節には、収穫できるイベントもあります。5月下旬～6月下旬は「青梅」、6月下旬～7月上旬は「すもも狩り」

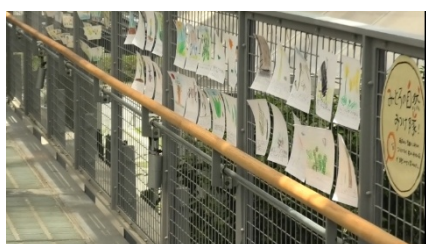
また、6月の13・14・20日には「じゃがいも収穫祭」などが行われます。

他にも、イベントとして「フリーライブ」なども開かれます。6月28日には、「ココ to そら」の植物園で奏でるライブも予定されていました。

伺った日は令和8年6月10日（水）、快晴の空のもと、爽やかな風を感じながら、展望台からの眺めは本当に素晴らしかったですね。丘の下には加古川が流れ、明石海峡大橋や淡路島も眺められました。



ぐるっと園内を巡って、最後は「温室（ガラスハウス）」を案内してもらいました。レストランも併設されていて、食事をしながら植物を観察できる場所でした。サボテンコーナーでは、サボテンの新しい芽も芽吹いていました。また、両荘みらい



学園の子どもたちが、「みつけ隊」で見つけた様々なことを絵や文にして、ここへ持って来てくれたとのこと。子どもたちの作品が並んで

いました。



その入り口には、センターハウス（総合案内所）があり、受付や園内の案内も兼ね、レンタル遊具などもここで貸し出してくれるそうです。

今回、取材をして改めて思ったことは、「加古川に、こんないいところがあったんだ！！」ということです。自然に囲まれた中、色々な樹木や果樹が育ち、その都度収穫もでき、泊まることもできる施設もあります。

親子で存分に楽しめる「みとろの丘」（みとろフルーツパーク）へ、是非、行ってみませんか。駐車場も広く、無料で入れ、思いっきり自然に触れ合えるところです。

そこで一言、「季節ごとの花が咲き しっかり実って収穫を楽しむ 自然と共に みとろの丘」



（ナレーション 古川 千代子）

【いなみ野学園 動画配信ホームページ】

https://www.hyogo-ikigai.or.jp/ikigai/video/video_inamino_summary.html



＜編集・発行＞いなみ野学園 ビデオ制作委員会（いなみ野学園大学院講座研究）

☎ 079-424-3388